



平成 21 年 11 月 9 日

各 位

| | |
|---------|---|
| 会 社 名 | 株 式 会 社 免 疫 生 物 研 究 所 (コード番号：4570) |
| 本店所在地 | 群 馬 県 高 崎 市 あ ら 町 5 番 地 1 |
| 代 表 者 | 代 表 取 締 役 社 長 清 藤 勉 |
| 問 合 せ 先 | 経 営 企 画 室 長 木 下 憲 明 |
| 電 話 番 号 | 027-310-8040 (代表) |
| U R L | http://www.ibl-japan.co.jp |

新しい関節リウマチ様病変、間質性肺炎及び骨粗鬆症モデルである DICC マウスの販売開始のお知らせ

当社は、本日 11 月 9 日より、新しい関節リウマチ様病変、間質性肺炎及び骨粗鬆症モデルである DICC マウスの販売を開始いたしますのでお知らせいたします。当社は、名古屋市立大学大学院医学研究科・細胞分子生物学分野の金澤智博士および岡本尚博士らが開発した本マウスに関しライセンス契約を締結し、今春に農水省の承認を得た後、市販に向けての体制整備を進めておりましたが、今般生産に目処が付いた事により販売を開始いたします。

本マウスは、従来型のコラーゲン誘発性関節リウマチ (collagen-induced arthritis, CIA) に比べ関節炎の発症がより慢性かつ進行性で、人における病態進行によく似ております。発症期間も CIA と比較して約 2 倍と長く、抗リウマチ薬の投与期間を十分に取る事が可能となり、薬剤の効果検討等に適しております。また肺においては、近年問題となっている間質性肺炎を発症する事から、同病態モデルマウスとしての利用も期待されております。

当社は、今後市販を通じて同モデルの普及を図り、5 年後に最大年間数千万円の売上を目指しております。

<DICCマウスとは>

抗原提示に関わる主要組織適合性複合体クラスIIを軟骨細胞において発現誘導させた遺伝子改変マウス (DICC : DBA/1, Collagen type II promoter/enhancer-driven CIITAの略称) です。

2型コラーゲン接種に高い感受性を示すため、低濃度の抗原接種で関節リウマチ (RA) 様病態を誘導することができます。症状は、数週間～数カ月間に渡り段階的に進行し、ヒトRAと酷似した滑膜の異常増殖、炎症細胞の浸潤、関節破壊や関節強直等を観察することができます。

また関節外病変として間質性肺炎や骨粗鬆症が観察されており、CIA モデルマウスにはない新たな特徴も併せ持つなど有用性の高いモデル動物であります。

<間質性肺炎 (かんしつせいはいえん) とは>

間質性肺炎 (interstitial pneumonia, IP) は、肺の間質組織に炎症をきたす疾患の総称で、非常に致命的であると同時に治療も困難な難病です。進行して炎症組織が線維化したものは、肺線維症 (はいせんいしょう) と呼ばれます。

以上